

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 みと好文カレッジ運営審議会
- 2 開催日時 平成26年2月25日（火） 午後2時00分から午後3時30分まで
- 3 開催場所 水戸市総合教育研究所
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 金藤ふゆ子, 金澤正巳, 大津亮一, 木下美直, 櫻庭紀久子, 田山和子, 横須賀聡子
 - (2) 執行機関 大録好文, 小林長正, 小川さつき, 加倉井房夫, 田中雄樹, 高瀬利博
 - (3) その他
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 報告事項
 - ア 平成25年度みと好文カレッジ事業実施報告について（別冊1）（公開）
 - イ 平成25年度水戸市生涯学習サポーターとの協働事業実施報告について（別冊2）
(公開)
 - ウ 平成26年度市民センターにおける生涯学習活動の重点目標について（公開）
 - (2) 協議事項
 - ア 平成26年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策（案）について（公開）
 - イ その他（公開）
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の数（公開した場合に限る。） 0人
- 8 会議資料の名称
 - (1) 平成25年度第2回みと好文カレッジ運営審議会
 - (2) 別冊1 平成25年度みと好文カレッジ実施事業報告書
 - (3) 別冊2 平成25年度水戸市生涯学習サポーターとの協働企画講座実施報告書
- 9 発言の内容

委員長 : それでは、次第に従いまして、議事を進めてまいりたいと思います。
 まず、1, 報告事項, (1) 平成25年度みと好文カレッジ事業実施報告につ

いて、事務局より説明をお願いします。

資料内容が多いため、目次、1の東湖塾から4の子育て応援塾までを前半に、5のさきがけ塾から8のNPO等との連携事業及び別冊2の生涯学習サポーターとの協働事業までを後半に説明をいただき、その都度、質疑を行いながら進めてまいります。

執行機関： (1, 報告事項, (1) 平成25年度みと好文カレッジ事業実施報告について、資料別冊1, 1, 東湖塾に係る職員の研修会実施事業報告書として、(1) 新任職員研修会(集合)、(2) 新任職員研修(訪問)、(3) 全体研修(訪問)、(4) 懇談会形式集合研修(新任市民センター所長研修)、(5) 全体研修(市民センター所長研修(講話))、(6) ブロック研修会意見交流会(東部, 常澄ブロック)、(7) 学習プログラム作成研修会(南部ブロック)、(8) 新講座提案事業(集合)について説明を行う。

次に、2, 好文塾に係る講座事業実施報告として、(1) 南部ブロックとして、学習プログラム作成研修に基づいた講座「若返り健康塾～毎日をいきいきと豊かに暮らすために～」、(2) 前項の「若返り健康塾」が好評だったことから、パートⅡを開催、(3) 緑岡市民センター単独の講座「親子の幸せ応援講座～心地よい関係を築こう～」について説明を行う。

次に、3, みと弘道館大学に係る講座事業実施報告として、(1) 小中学校を対象とする「江戸しぐさ」、(2) 大学生を対象とする「面接にも使えるコミュ力UP講座～君にスキルを倍返し～」、(3) 妊娠期の母親を対象とする「すこやかな親子の絆をつくる魔法のスキル」について説明を行う。

次に、4, 子育て応援塾に係る講座事業実施報告として、(1) 親業訓練講座(入門, 一般)、(2) ベビーマッサージ講座、(3) 親子ヨガ講座について説明を行う。)

委員長： ただいま事務局より説明をいただきました。質問があれば、お願いします。

委員： 事業実施報告書を見た感想は、みと好文カレッジの事業は、各世代を対象にしていることが良い。また、事業を実施した後の成果や課題が率直に記載されており、次年度にいかされることを期待する。

委員： 別冊1, 7ページの東湖塾全体研修「市民センター所長研修会」では、人権問題を取り上げたことは評価できるが、事業の目的では、「生涯学習の推進を図る」ではなく、「人権問題の解消を図る」が適切ではないのか。

また、要望ですが、人権関連では、同和問題以外にも、子ども、女性など多数ある。引き続き人権問題に関する取組をしていただきたい。

執行機関： 事業の目的では、より適切な記述をしてまいります。

委員： 学生向け講座の「面接にも使えるコミュ力UP講座」は大変すばらしい。ぜひこのような若者向けの講座を今後も考えていただきたい。

委員長： 続きまして、「5のさきがけ塾」から「8のNPO等との連携事業及び別冊2の生涯学習サポーターとの協働事業」までの説明を事務局よりお願いします。

執行機関： 1報告事項(1) 平成25年度みと好文カレッジ事業実施報告について、引き

続き、資料別冊1、「5 さきがけ塾（生涯学習サポーターチャレンジ講座）」に係る講座事業実施報告として、（1）第二期・一年次後期内容（4月～9月）、（2）第二期・二年次前期内容（10月～3月）について説明を行う。

次に、「6 さきがけ塾塾生企画講座」に係る講座事業実施報告として、（1）暮らしと環境コースとして、「ア 楽得エコ術～ちょっとの工夫で暮らし上手～」、（2）粋な幸齢期コースとして、「ア 自分史をつくるか～自分の人生の素敵な宝物を発見し記録しよう」について説明を行なう。

次に、「7 ほっとひといき夢らんど」に係る講座事業実施報告として、（1）全10回の事業実施内容、（2）育児ボランティア「えくぼ会」実技研修会について説明を行なう。

次に、「8 NPO等民間非営利団体との連携事業・親が変われば、子どもも変わる」に係る共催事業実施報告として、「子育て応援隊 親子が幸せになるヒント」について説明を行なう。

次に、報告事項（2）「平成25年度水戸市生涯学習サポーターとの協働企画講座実施報告」について、資料別冊2「平成25年度水戸市生涯学習サポーターとの協働企画講座実施報告書」として、「ア いじめ ～いじめの子・いじめられる子・知らん振りの子～」、『イ いっぱいあるよ「水戸のよさ」（お宝再発見）』、「ウ 親の知らない子どものネット社会～大人がすること！できること！～」、「エ 生きる力は未来への力 ～メシが食える大人になるために～」、「オ あなたの声である名作を」、「カ 目からウロコ 文化施設の魅力 ちょっと贅沢 プレミアムツアー ～今だけ見られる舞台裏～」について説明を行う。

委員長： ただ今、事務局より説明をいただきました。質問をお願いします。

委員： 資料51頁の事業の目的には「自分の過去を振り返り、しっかり未来に向かって歩む」とあるが、成果の欄に書いてあるような「自分史をつくることで、今までの人生を振り返り、より楽しく充実した人生を迎えるため」とするほうが適切と思われる。

委員： 同じく資料51頁における事業の成果を作成したのはさきがけ塾生が作ったのか、それともみと好文カレッジが作ったのか。

また、講師がいない時は、「塾生が受講生の支援に入った」ではなく「受講生の支援体制作りをとった」が現実ではなかったか。

次に、プレミアムツアーでは、市を超えて県と協力し合った事業になっており、今後も各行政間の垣根をとって国・県・市の連携事業を進めていただきたい。さらには、事業の振り返りでは、参加者からのアンケートだけでなく、企画者側にもアンケートをとり、企画者からの意見も吸い上げていくべきではないのか。

委員長： 企画者からも意見を吸い上げると良いと思います。サポーターとの協働事業については、主体的にサポーターが実施しているのでしょうか。またサポーター自身が振り返ることがあるのでしょうか。

執行機関： 事務局として各グループに担当者がついていることから、内容を把握しており担当者が感じたままを基に作成を行った。なお、3月14日にサポーターと事業

の振り返りを行う計画をしておりますので、次年度に反映できるものと考えております。

委員：事業の評価に関しては、県でも取り組むべきこととしている。社会のニーズや要望に対応した講座をどんどんアウトプットしていくと、必ずしも大勢の人が受講を希望するものだけではない。そうすると、評価方法については、人数以外の要素を明確にしておく必要がある。それが、現代的課題に取り組む基準（スタンダード）となる。生涯学習を推進する上で、趣味やスポーツを楽しむだけでなく、現代的課題を企画する意味がそこにあると思う。

評価は事業が終わってからではなく、企画の段階から考えていくことが良いと思われる。今後の取り組みとして、事業の成果に関する事前研修を行ってはどうか。

委員長：企画するプロセスも大事です。先を見通して企画の段階から評価を見据えていくことが望ましいのではないのでしょうか。

委員：好文カレッジのプログラムは内容的に大変素晴らしいものが多く、評価は重要であることは分かるが、あまり早急に結果を求めることなく、少し成果については時間をかけて見守るということが重要と思います。

委員長：好文カレッジの事業への応援のメッセージですね。

委員：NPO等民間非営利団体との連携事業の「親が変われば、子どもも変わる」運動子育て応援隊については、大切な取り組みである。助成金を受け事業を実施すると記載されているが、この事業は単年度事業なのか、継続した取り組みをするのか。

執行機関：この事業は単年度事業です。茨城県青少年育成協会が公募しているもので、県から10万円の事業費補助を受けているものです。この事業はみと好文カレッジとの共催事業として実施したものです。

委員：このような団体等との連携事業は、今後とも推進していくべきと思います。

委員：学校教育と社会教育があるが、学校ではどうしても社会教育ができない、社会教育に手伝って欲しい。例えば、大切な家庭教育を推進するにあたり、学校教育活動の場を活用して社会教育に入ってきて欲しいのです。

委員長：続きまして、1報告事項（3）の平成26年度市民センターにおける生涯学習活動の重点目標について、事務局より説明をお願いします。

執行機関：1報告事項（3）の平成26年度市民センターにおける生涯学習活動の重点目標について、前年度との比較表を基に説明を行なう。

委員：子どもの表記を漢字に変えるようですが、市として統一しているのか。また、促進を推進に変えているが、その違いを説明願いたい。さらには、人権問題を取り扱うことを希望する。

執行機関：市として統一をしてはいない。文部科学省内において、漢字の子供への表記に変わったことから、変更するものであります。ちなみに7月刊行の文部科学白書から使用しています。また、促進と推進の違いは、より積極的に関わるということで「促進」を「推進」に表現方法の見直しをいたしました。

委員長：続きますので、2の協議事項に進んでまいりたいと思います。

(1) 平成26年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策(案)について事務局より説明をお願いします。

執行機関：2協議事項 (1) 平成26年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策(案)について、前年度との比較表を基に説明を行なう。

委員：子育てサークルの方から、市民センターが使えないと言う話を聞いている。子育てサークルは声がうるさいと言うのであれば、この日は、茶道教室がある日なので貸出ができないなどの説明をきちんとすればよいのではないかと。市民センターが使えるようにしてほしい。

執行機関：ただ今の話を市民生活課に対処できるよう説明して参ります。

委員：説明の中で、(2)の全市的な生涯学習の推進、①みと弘道館大学の開催の中で、「水戸市生涯学習サポーター」との協働による先進的な学習プログラムを市民に提供するとなっているが、これは、これまでよりもっと斬新とか、先行した事例と言うことなのか。先進的について説明をお願いします。

執行機関：サポーターとの協働事業そのものが先進的な講座となっている。よって、すでに先進的取り組みをしていることから、先進的という言葉を入れた。

委員：学習情報の提供方法の件ですが、ここではホームページなどとなっていますが、若い方たちは、メールを使っていると思うのですが、年配者の方はチラシや市報を見て電話やFAXでの申込ではないのか。メール、FAX、電話の比率はどの様になっていますか。チラシの表記を残してはいかがでしょうか。

執行機関：若い方たちは、ほとんどがメールです。対象年齢が高い講座では、FAX、電話の比率が多い状況です。御指摘のようにチラシの表記を入れるようにしてまいります。

委員：その他にも市報があるのではないかと。いや、チラシなどに含まれているということでもいいのかな。

執行機関：そのようにお願いします。

委員長：次に(2)その他について、何か御提案等がありますか。

特に無いようなので、以上をもちまして第2回みと好文カレッジ運営審議会を終了といたします。